

ワークショップ(仮称)中央図書館をつくろう2

豊中市では令和10・11年度に(仮称)中央図書館の開館を予定しております。

本市初の「中央図書館」の具体化に向け、これまでお寄せいただいた市民の皆さまのご意見やアイデアを整理し、今年度策定する「(仮称)中央図書館整備計画」をまとめるため、グループ討議や意見交換中心のワークショップスタイルで開催(3回連続)することになりました。

◆ 10月20日(日曜)のようす(参加人数=14人)

時 間	内 容
10:30~	□「基本構想」および「みらいプラン」に基づき、(仮称)中央図書館のサービスについて(説明) □北摂アーカイブスについて(説明)
10:50~	□本日のワーク内容について(説明)
11:00~	□個人ワーク:中央館で取り組むサービスの重みづけ
11:10~	□(仮称)中央図書館のサービス案について(説明)
11:20~	□グループワーク:サービスの重みづけを通して中央館のサービスについて意見交換
12:00~	□グループ発表(1グループ5分)
12:20~	□次週、取組み内容について(説明) □参加者アンケート記入

タイムテーブル 10:30~12:30



ワークショップの目標

- アンケートやワークショップで得た意見やアイデアを整理し、整備計画にまとめる。
- 基本構想の内容や(仮称)中央図書館のサービスなどについて皆さんと共有する。
- 中央館の役割や機能を踏まえて、サービスや諸室のあり方について意見交換する。

くまとめ: サービス計画を網羅的に、できる範囲で詳細に>

前回の意見整理を受けて、サービスに関する意見を中心に検討し、整備計画に盛り込んでいくサービス内容について意見交換しました。

各グループとも施設連携や他機関連携のほか、イベント等の開催、レファレンスなど相談機能の充実について重視するものとして挙がっており、整備計画に位置付けていく方向性を確認することができました。

また、市民意見にみられない機能、たとえば学校図書館への連携・支援や、地域館・分館の支援、適切な情報発信などを必要とする意見もありました。

基本構想の4つの機能イメージを充実させ、まちづくりについての方針を追加してサービス計画をまとめていくこととしましたが、例示などの記述を追加することを含め、各項目をさらに充実させることにします。

10月20日 配付資料リスト

1. 中央館サービス検討ワークシート
2. 全体説明資料
3. 北摂アーカイブス参考資料
4. 基本構想【概要版】
5. みらいプラン【概要版】
6. 参加者アンケート
7. 前回報告資料

<グループワーク>



20日はまず図書館協議会の意見書や基本構想に基づき、中央館の機能について理解を深めました。北摂アーカイブス事業について紹介し、子ども読書活動や障害者サービス、庄内 REK などでも取り組んでいる市民協働について、市民意見を補足する情報提供を行いました。それから整備計画のサービス方針（案）に沿って、サービスに関する市民意見を3グループに分かれて検討しました。グループ発表の時間を設け、各グループの成果を参加者で共有しました。



ワークでの意見 A グループ

- データベースは、これから必要である。
- 他機関連携は、ほかの施設だけではなく、役所のいろんな所・相談窓口等へつなぐこと、そのための資料提供が必要。
- 団体貸出は、文庫・保育所・高齢者施設などへのつながりのバックアップもする。
- 読書相談は、地域で解決できないことを返していく。
- 司書がいて気軽に話が聞けること。
- イベント 図書館に行けばいろいろ知ることができることを、宣伝する必要がある。
- 学校図書館を支えるのは地域館や分館で、中央館はその地域館や分館を支える。全体を見渡すことが大事。
- 行政や、全体への資料提供を、中央館が中心になってつないでいく。
- 貸出記録 読書通帳を導入することで本を読む人を育てていく。豊中には住んでいる作家の方も多く、記録することにより一定量読んだら、作家の方のしおりをプレゼントするなどしたら達成感があり読書をするようになるのではないかな。
- 誰でも利用できるサービス。
- 保育 こどもが眠っている間に利用できるように子供が目を覚ますまで置いておけるサービスを希望とあるが、慎重にしたほうがよい。子供は、寝ている間が危険なので保育所などでも小さい子は体位変換や、呼吸確認をしている。起きている状態でならまだましなので、今の一時保育などのほうが良い。

ワークでの意見 A グループ（続き）

- イベント 図書館職員・司書の持っている知識をだす。
- 中央館は駅前にできる予定だが、他市で駐輪場・駐車場が有料になっているところがある。有料だとゆっくりすることができない。
- 駐輪場・駐車場のスペースをどれくらい考えているか。
- 庄内の静寂読書室のように、いろいろな人が過ごせる部屋が増えている。感覚過敏の方などが過ごせる部屋などを設置するところも増えている。どのように設置していくか。
- 中央図書館専用の SNS（X やインスタグラム等）があるとよい。図書館だけでまとまっていなと探しにくい。
- 生涯学習がかなえられるところ。こども（幼児・小中学生）が本に触れる機会があり、触れやすい場であってほしい。まだ、小さくにぎやかで走ったりするこどもでも、興味を持った子たちが来られる場所にす。
- 図書館と郷土資料館、文書館、他市の図書館・資料館との関係性。特に市内の郷土資料館・文書館との資料の共有・連携はしたほうがよい。
- 同じ市内でも豊中の図書館より、他市の図書館のほうが近ければそちらも使えるよう、広く緩やかに考える。
- 豊中は、横は狭いが縦は長いので、駐輪場も必要である。
- 最新データベースをそろえるというのは、あまり想像できない。それよりも、国会図書館のデジタルコンテンツなどを簡単にみられるようになるとよい。
- 座席の予約は不要。フレキシブル性がなくなる。庄内図書館を参考にするとよいのではないか。この席は今日はこの人がキープとかではなく、自由に座れるほうが良い。
- 送迎バスはよい。
- 団体貸出は、地域に利用する団体（高齢者施設など）があればが良い。資料の提供や、アーカイブスの写真の提供などができる。
- ワークショップでの検討が、図書館でのサービスや機能に絞られているが、どのような建物にしたらよいかの議論が必要ではないか。シンボリックなものにするのか、どこにどんな形の建物を建てるかを、市民参加でする議論が必要。
- VR 図書館で資料を調べるときに書名や著者名がわからないと探せないが、VR でアバターが書架や普段は入れない書庫などをブラウジングできるとよい。
- 国会図書館の検索がさくっとできる。
- 施設連携 商業施設との連携はものによってはいいが、現在の仕様書では 1 階にスーパーがあり 2・3 階が図書館になっているが一体感が出るか。無理ではないか。
- 他機関連携 箕面市船場図書館は大阪大学と連携しているが、大阪大学は豊中に本部があり豊中が連携してもよいのではないか。
- 茨木市のオニクルブックパークは、検討段階から市役所の他課などと連携して検討したからできた。市役所内の協同が必要。
- 曾根にできるのなら、文化芸術センターや公民館との連携は必須。
- 調査相談調べもの 司書のレベルアップ・増員 社会問題の解決などにも対応できるレベルアップが必要。
- 螢池図書館は蔵書も司書の人数も減ると思うので、中央館との連携ができるように、また直接中央と話がで切るとなるとよい。
- イベント 市民の参加やボランティアをぜひ入れてほしい。

ワークでの意見 A グループ（続き）

- 必ず、司書を入れてほしい。書籍の基礎知識がある人が大事。
- 前回の記録にあったと思うが、新刊書のうち 5 万冊を入れるべきだというのは反対。専門書なども必要だが、何でもよいわけではない。
- 豊中の歴史資料・地域資料って何だろう。必要な資料ならどうやって集めるか。選書や除籍の基準もあると思うがわからない。
- 社会的・豊中の課題になっている資料をいれてほしい。社会的に問題になっている資料が少ないと思う。
- ニュースなどで話題になったものをすぐに出せるように。
- 見せ方が大事。豊中になれば、他市から借りられるなどの情報や、広域で借りられることを知らない人も多い。情報発信が必要。プレゼンテーション能力が必要。
- 広域などの宣伝と、司書の必要性は、切り離れたほうが良いのではないか。
- 市民もリクエストをするなど、必要なものを知らせていくことも大事。
- 市民と司書の交流が大事。一緒に育っていく。新たなサービスが、見えてくる。
- 幼児に対して、図書館にある知識にどのようにふれさせるか見せ方・切り口が大事。
- 司書と利用者とのコミュニケーションが必要。中央図書館がつかないでいく、読んでもらう、来てもらうサービスが必要。
- 生涯学習 幼いころからシニアになっても学び続けられる。

ワークでの意見 B グループ

- まちの魅力を高める中央図書館は大切なところなので、加えてもらって良かったと思う。
- ゆったりしたスペースとあるが、建築予定では 2 フロアで考えると、あれもこれも詰め込むことはできない。中央図書館として何があればいいのか。データベースの充実。地域の図書館からも中央図書館のものが利用できるような、豊中一帯のデータベースを総括するような部署があればいい。
- 図書館フロアでは図書館でしかできないことをしてほしい。カフェが欲しいなら商業施設に、部屋貸しは公民館にまかせる。
- 専門書も人気の本もみんなあればいいとは思いますが、そんなに詰め込みができるのか。
- サービスの 5 つの方針(4)すべての人が利用しやすい中央図書館で、アウトリーチとデジタル化とあるが、一見した感じ、図書館に来なくてもいいと言われている感じがする。自ら学ぶ場、本人がやりたいという気持ちを大切にしたい。設備を用意するのではなく、学ぶ人をバックアップしてくれる人が欲しい。すべての人が利用しやすいというのは中央図書館だけで考えていてはだめで、地域の図書館も中央図書館ができた利点を受け取れる、もっと広い視点で考えなくてはならない。
- 学校図書館支援ではなく学校図書館と連携する地域図書館を支援するのが中央図書館ではないか。このような書き方だと表現については誤解を招く。学校教育で使える資料は共に学んでいかなければならなくて、豊中市の学校図書館は、支援から連携につながってきた経緯がある。
- 中央図書館は 5,000 m²、2 フロア規模とあるが、イメージがわからない。色々なものがあわさると、すべてあるけれど何もないということにはならないか。
- まずは来館してもらう。そこから本につながっていくにはという視点からワークシートのサービス内容を選んだ。閲覧スペースというと、静かにしないといけないイメージがある。

ワークでの意見 B グループ（続き）

- 私は図書館をあまり利用しない。本はおもに書店で購入する。それは書店の本棚を見るのが楽しいから。それぞれの店員が工夫した本棚はそれだけでも来店のかっけになる。司書のおすすめ本の棚や展示が継続的にあれば、来館の動機にもなる。図書館に対し親近感もわく。先日、森ノ宮で古本市があり、大阪市の図書館が 8 館くらい共同で、ブースを出していた。そこでは各図書館おすすめ本を出していた。個性が出ていて、親近感もわいた。公平性も考えないといけないと思うが、もっと自由度があってもよい。
- 他機関連携、不登校の問題などもあるが、来てもらうことが重要で、その先に必要に応じてつながっていけばいい。地域包括ケアもあるが、そのようなしくみを整えていく必要があるのかなと思う。
- 図書館にはヤングアダルトコーナーなどもあるが、中高生のための場所、活動スペースの充実。これから利用してもらいたい若い方へ来館を促すきっかけづくり、視点があってもいいのではないかな。
- 市民協働はボランティアだけですませるのではなく、民間との連携など、ビジネス支援にもつなげていくものがあるといい。
- 中央館であれば、本来ならもう少し広いスペースが必要ではないか。図書館は本を読むだけのスペースではなくなっている。
- 文化芸術センターや中央公民館と連携して、曽根駅の地域一帯を生涯学習センターの機能をもたす。
- 図書館は、知的情報を発信する場であってほしい。
- 自習室は多少あってほしいと思うが、自習される方に占拠されては何のための図書館か。
- デジタル図書を利用した。他の図書館で、職員に尋ねたら、デジタル図書には俗物的なものもあると聞いた。そこまでしてデジタル図書を充実させる必要があるか。
- 庄内図書館はカウンターからフロア全体を見渡すことができない。新しい施設なのに、使い勝手が悪い。案内も少ない。複合施設の連携が生かされていない。
- 豊中市には大阪大学と大阪音楽大学がある。それぞれの大学の専門分野を活かした連携も考えてもらいたい。
- 生涯学習とあるが、年配の方だけでなく、リスキリングでも図書館の役割は大切ではないか。
- 意見やアイデアをどう集約していくのか。どのようなプロセスでどう作っていったのかが重要ではないか。プロセスについてはプロフェッショナルにしてもらいたい。自分たちの意見で大丈夫か。
- 規模の限界があるので優先順位をどうするか。図書館のコアは知的情報の発信の場であって欲しい。図書館の本来のところを議論すべきで、そこを固める必要がある。
- 図書館へ来館をしてもらう取り組みが大切で、図書館をこの場所に、どのような機能をもたせるのか、もっと深堀する。
- 図書館はできたら 1 階で。または空中回廊でつなげて、駅に直結できるような構造に。
- 中央館構想自体、もっとゆっくり時間をかけて作ってほしいのではないかな。他市で 20 年かけた事例もある。
- 地域創生塾に参加した。コミュニティデザインという物事の進め方の話でした。一緒につくる、オープンしてから使ってくれる人を育てていくプロセスが素敵だなと思った。成長する図書館であってほしい。

ワークでの意見 C グループ

- 12（読書相談）・13（調査相談レファレンス）・14（利用案内）は、それぞれに分けるのではなく、1つにまとめてはどうか。なんでもそこに行けば相談できるような、総合窓口のイメージ。総合窓口には、相談しやすい雰囲気の職員を置いてほしい。
- 5（施設連携）・6（他機関連携）・15（保育）、これらも、他機関（施設）との連携として、1つにまとめてはどうか。分ける必要性があまりないように感じる。
- データベースの利用について、（紙の）本だけによらない、例えば百科事典のデータベース等、有料のデータベースが閲覧できるスペース（専用の部屋）があって、いつでも使えるようになっているとよい。
- 動く図書館は2台で運行し、巡回場所を増やしてほしい。
- 送迎バスは必要。豊中市東部、南部の市民は来にくい場所。箕面市の「オレンジゆずるバス」のようなイメージ。送迎バスは一定数の利用者が見込めるため、採算はとれるはず。また、送迎バスが適度に走っていれば、動く図書館で巡回する場所も、ある程度絞れるのでは。
- VRのような最新技術（ICT サービス）は、図書館の魅力向上につながるのではないか。
- 団体貸出のスペース、ボランティアが話し合える場所は必要。
- 学校図書館「支援」ではなく、「連携」ではないか。中央館に限らず、（学校図書館と）地域館や分館との連携も重要。
- 気軽に行ける、地域館や分館は残してほしい。
- レファレンスサービスはあまり活用されていないのでは？ボランティアでも、本の案内や相談にのれることがあると思う。ボランティアスタッフを募ってはどうか。
- イベントについては、蔵書を活用したイベント等、積極的に、また定期的に行ってほしい。近隣施設も活用すればよい。
- 障害のある人が来やすい、来たくなる図書館にしてほしい。ソフト面でも、読書バリアフリーを考慮したものであってほしい。
- 市民の愛着のわくような、シンボルとなるような外観がよい。
- 開館時間は、将来の利用者（若い世代）が希望する、20～21 時までとしてはどうか。今後の図書館利用につながるのでは。
- 高齢者にとっても新聞を閲覧できるスペースは必要。また若い世代は新聞に触れる機会が少ないが、図書館にあれば新聞を読むことにつながる。



次回、**10月27日（日曜）** 10時30分から12時30分
本記録や事前資料にお目通しのうえ、ご参加いただけますと幸いです。テーマは諸室のあり方・関係性になります。



お問い合わせ

豊中市教育委員会事務局 読書振興課
TEL 06-6843-4553(岡町図書館内)
Email okamachito@city.toyonaka.osaka.jp